

事業所名

One Piece(ワンピース)【児童発達支援】

支援プログラム

作成日

6年

6月

1日

事業所理念	子どもたちが自分らしく社会や人と共生する力をつける						
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやプログラムの活動などを通して様々な経験を重ね、子どもたちの「できる!」「できた!」をともに喜びます。その達成感や自信によって子どもたちが「自分らしく生きていく力」を伸ばしていけるように支援します。 ・集団生活の中で、基本的な生活習慣が身につくとともに、人との関わりの中で、自分や周りの人を大切にする「思いやりの心」「人のかかわり方」も身につくようにサポートします。 ・応用行動分析(ABA)を軸にした療育で、生活に必要な動作が就学までに一つでもたくさん獲得できるように、個々の能力を最大限引き出し丁寧に支援します。 						
営業時間(平日)	13時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	無し	
営業時間(休日)	10時	00分	15時	00分	送迎実施の有無	無し	
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排せつ、衣類の着脱(身だしなみ)など、個々の発達段階に合わせた基本的な生活習慣の自立を促し、健康的な生活を送るための支援をします。 ・登降所時の身辺処理(靴の脱ぎ履きや靴箱への出し入れ、荷物の整理、連絡袋の提出、収納など)を利用児に合わせて習慣化出来るように支援します。 ・生活の中での課題をご家族から伺い、個別支援として取り組みます。 ・気温や室温に合わせての衣服の調節、適切な水分補給、休息休憩を促すとともに、発達段階に応じて自らも行えるように支援します。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢保持や筋力の維持強化を図ります。運動や動作が困難な場合は身体移動の補助を行い、日常生活に必要な基本的技能向上のための支援を行います。 ・小集団または個別で発達年齢や運動能力に合わせたお散歩や体操、トランポリン、ボール遊び、縄遊び、公園で固定遊具を使っの遊びなど、室内外で体を使う課題を積極的に取り入れて体力や身体機能の維持、向上を図ります。 ・サーキット遊び・音楽・リズム遊びや製作等、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、様々なプログラムを提供します。 ・専門機関と連携し、それぞれの利用児に必要な運動機能やバランスなどに有効な取り組みへの助言に基づいたプログラムを考え実施し、支援します。 ・感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の活動やスケジュールについて、視覚的な方法を用いて、見通しをもち安心して過ごせるように支援します。 ・ABA(応用行動分析)を基本に、個別の課題に取り組みます。「できた」が積み上げられ、一緒に喜ぶよことを増やします。また、感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防及び適切行動に変えていけるよう支援を行います。 ・色や形、大小、数等の概念の形成が出来るような遊びやプログラム(造形、ゲーム遊び等)を提供します。 ・1人ひとりの認知の特性を理解し、入ってくる情報が処理しやすいように支援します。 ・わらべうた遊びや椅子取りゲーム、フルーツバスケットなど、簡単なルールのあるゲームや遊びを提供し、繰り返し行うことでルールを楽しんで覚えられるように支援します。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が増え、表現が豊かになるように、日常のやりとりを大事にし、経験を積めるように支援します。 ・音声模倣を通して、言葉での表出引き出します。 ・また発達段階や特性に合わせて、理解できる方法で時間をかけて支援します。言葉のほか、指差し、身振りサインなどを用いて意思表示のための支援を行います。 ・遊びや活動を通して人と関わる機会を増やします。その中で人とのやりとりを楽しむ経験を積めるよう支援します。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の「安心できる基地」の役割が果たせるよう、環境に対する安心感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行います。 ・まずは職員との関係性を構築し、家庭でも保育園(幼稚園、こども園)でもない場所で、支援者である家族以外の大人と安心して関わり、のびのびと自分らしく過ごせる時間、場所を提供します。その中でお友だちとやり取りをする機会を作り、職員が間に入り援助、支援します。 ・模倣(まね)から遊び(ごっこなどの象徴遊び)へ、一人遊びから協同遊びへと移行することにより、役割分担したりルールを守ったりなど、社会生活に必要な発達支援を行います。 					

<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 ・面談の機会を設け、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。
<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や学校等、ステージの移行期を大切にします。 ・こども園、幼稚園、保育園、就学する小学校や他事業所と情報共有、連携をします。移行のための支援会議に参加します。 ・環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、こども園、幼稚園、保育園や習い事、ご利用の他事業所と情報を共有し、連携します。 ・支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 ・生駒市放課後等デイサービス協議会に参加します。 ・生駒市自立支援協議会に参加します。
<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。 ・職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)をします。 ・保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。 ・外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と職員の懇談会「LooP」 ・法人のお祭り「インフェス」 ・ABAコンサルティング ・季節の行事(イースター・流しそうめん・お月見どろぼう・ハロウィン・クリスマス・初詣・節分・卒業パーティー・卒所式など)

事業所名

One Piece(ワンピース)【放課後等デイサービス】

支援プログラム

作成日

6年

6月

1日

事業所理念	子どもたちが自分らしく社会や人と共生する力をつける						
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやプログラムの活動などを通して様々な経験を重ね、子どもたちの「できる!」「できた!」をともに喜びます。その達成感や自信によって子どもたちが「自分らしく生きていく力」を伸ばしていけるように支援します。 ・集団生活の中で、基本的な生活習慣が身につくとともに、人との関わりの中で、自分や周りの人を大切にする「思いやりの心」「人のかかわり方」も身につくようにサポートします。 ・応用行動分析(ABA)を軸にした療育で、生活に必要な動作が獲得できるように、個々の能力を最大限引き出し丁寧に支援します。大人になるまでに身につけたいルールやマナーを、何度も繰り返し伝えていきます。 						
営業時間(平日)	13時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	有り	生駒市内の自宅・学校(高山町、鹿ノ台、真弓方面など一部地域をのぞく)及び奈良西養護学校・奈良養護学校
営業時間(休日)	10時	00分	15時	00分	送迎実施の有無	有り	同上
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排せつ、衣類の着脱(身だしなみ)など、個々の発達段階に合わせた基本的な生活習慣の自立を促し、健康的な生活を送るための支援をします。 ・登降所時の身辺処理(靴の脱ぎ履きや靴箱への出し入れ、荷物の整理、連絡袋の提出、収納など)を利用児に合わせて習慣化出来るように支援します。 ・生活の中での課題をご家族から伺い、個別支援として取り組みます。 ・気温や室温に合わせての衣服の調節や、TPOに合わせた衣服の選択、適切な水分補給、休息休憩を促すとともに、発達段階に応じて自らも行えるように支援します。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢保持や筋力の維持強化を図ります。運動や動作が困難な場合は身体移動の補助を行い、日常生活に必要な基本的技能向上のための支援を行います。 ・集団または個別で体格や運動能力に合わせたウォーキングや体操、ボールや縄跳びを使った戸外活動など、体を使う課題を積極的に取り入れて体力や身体機能の維持、向上を図ります。 ・サーキット・音楽活動や製作活動等、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、様々なプログラムを提供します。 ・専門機関と連携し、それぞれの利用児に必要な運動機能やバランスなどに有効な取り組みへの助言に基づいたプログラムを考え実施し、支援します。 ・感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の活動やスケジュールについて、視覚的な方法を用いて、見通しをもち安心して過ごせるように支援します。 ・ABA(応用行動分析)を基本に、個別の課題に取り組みます。「できた」が積み上げられ、一緒に喜ぶよことを増やします。また、感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防及び適切行動に変えていけるよう支援を行います。 ・色や数字、形、大小、数、重さ、空間、時間等の概念の形成が出来るような遊びやプログラム(造形、ゲーム遊び等)を提供します。 ・1人ひとりの認知の特性を理解し、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援します。 ・集団で行う簡単なルールのあるゲームや活動を提供し、繰り返し行うことで楽しみながらルールを覚え、理解できるように支援します。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が増え、表現が豊かになるように、日常のやりとりを大事にし、経験を積めるように支援します。 ・言葉や文字を用いて、自分の考えや思いを言語で表出できるように支援します。 ・また発達段階や特性に合わせて、理解できる方法で時間をかけて支援します。言葉のほか、指差し、身振りサインなどを用いて意思表示のための支援を行います。 ・遊びや活動を通して人と関わる機会を増やします。その中で人とのやりとりを楽しむ経験を積むとともに、年齢や発達に応じて、相手との適切な距離感を意識できるように支援します。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の「安心できる基地」の役割が果たせるよう、環境に対する安心感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行います。 ・模倣(まね)から遊び(ごっこなどの象徴遊び)へ、一人遊びから協同遊びへと移行することにより、役割分担したりルールを守ったりなど、社会生活に必要な発達支援を行います。 ・他者との適正な距離感を把握が出来るように、適宜声掛けを行い、他者との良好な関係形成を支援します。 ・集団活動を通して、他者とのやり取りの場を提供し、職員が間に入り援助、支援します。 ・年齢や発達段階によって、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を定期的に取り入れ、自分らしい他者や社会との関わり方を見つけられるようにします。またパーソナルスペースをはじめ、段階に応じた性についての話をわかりやすく伝えていきます。 					

<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 ・面談の機会を設け、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。
<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や学校等、ステージの移行期を大切にします。 ・学校や他事業所と情報共有、連携をします。移行のための支援会議に参加します。 ・環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、学校や習い事、ご利用の他事業所と情報を共有し、連携します。 ・支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 ・生駒市放課後等デイサービス協議会に参加します。 ・生駒市自立支援協議会に参加します。
<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。 ・職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)をします。 ・保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。 ・外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と職員の懇談会「LooP」 ・法人のお祭り「インフェス」 ・ABAコンサルティング ・季節の行事(イースター・流しそうめん・お月見どろぼう・ハロウィン・クリスマス・初詣・節分・卒業パーティー・卒所式など)

事業所名

One Step(児童発達)

支援プログラム

作成日

6年

6月

1日

事業所理念	一人ひとりが自分らしく本来の力が発揮できる					
支援方針	ともにチャレンジし、支え合い、多様性を育みます ABA(応用行動分析)を軸にした療育を行います 子どもたちが「できた」「伝わった」を実感できるようなプログラムを設定し、支援します					
営業時間(平日)	13時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	有り
営業時間(休日)	10時	30分	15時	30分	送迎実施の有無	有り
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康管理と必要な対応を行います。小さなサインから心身の異変に気づけるよう、観察を行います。 ・登降所時の身辺処理(荷物の整理、提出物の管理など)を利用児に合わせ実施し、習慣化出来るように支援しています。 ・1日の流れや、イベントの説明などは視覚支援を用いるなど、利用児の分かりやすい方法で伝え、不安なく過ごすことが出来るよう支援します。 ・生活の中での課題を利用児、ご家族様から伺い、個別支援として取り組みます。 ・食事や排泄、手洗い身だしなみなど基本的な生活習慣の自立を促します。 					
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動にて、運動や手先課題など体や指先を使う課題を提供し、身体機能の維持・向上を図ります。 ・プログラムにて、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、様々な体験を提供し支援します。 ・柔らかい・固い・サラサラ・ドロドロ等の色んな感覚刺激が体験できるプログラムを設定し、創造性を育てていきます。 					
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・応用行動分析を基本に、課題に取り組みます。スモールステップで工夫しながら「できた」「わかった」が積み上げられるようにプログラムを考えます。 ・認知の偏りを把握し、適宜支援を行うことで拘りや忌避感を軽減できるように支援します。 ・プログラムにて、各感覚を刺激し興味の幅を広げることが出来るように支援します。 ・1日のスケジュールを視覚的に提示し、見通しをもって過ごせるように支援します。 ・遊びやプログラムを通して、集団行動やルールを楽しく身につけられるように支援します。 					
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やし、表現が豊かになるようにします。適切な表現方法を身に着けることで気持ちのコントロールや、よりよい関わりにつながるように支援します。 ・相手との距離感が適切になるよう、実際にどうすればいいか一緒に考え、実践していけるように支援します。 					
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・思いに寄り添った言葉がけに努め、職員と利用者様の良好な関係形成を図ります。 ・職員がモデルケースとなり、他者交流の経験を積むことが出来るように支援します。 ・集団活動を通して、ルールや順番を守ることや、協調した関りを持てるように支援します。 ・他者との適正な距離感を把握が出来るように、適宜声掛けを行い、他者との良好な関係形成を支援します。 ・集団活動を通して、他者とのやり取りの場を提供し、職員が間に入り援助、支援します。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 ・面談の機会を設けたり、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。 					
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や学校等、ステージの移行期を大切にします。 ・園や他事業所と情報共有、連携します。移行のための支援会議に参加します。 ・環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。 					
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、園、ご利用の他事業所と情報を共有し、連携します。 ・支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 ・生駒市自立支援協議会に参加します。 					

職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。・職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)の研修をします。・保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。・外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none">・保護者と職員の懇談会「LooP」・法人のお祭り「インフェス」・ABAコンサルティング

事業所名

One Step(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

6年

6月

1日

事業所理念	一人ひとりが自分らしく本来の力が発揮できる						
支援方針	ともにチャレンジし、支え合い、多様性を育みます 子どもたちの自己理解を深められるように、対話やプログラムを行います ABA(応用行動分析)を軸にした療育を行います						
営業時間(平日)	13時	30分	17時	30分	まで	送迎実施の有無	有り
営業時間(休日)	10時	30分	15時	30分	まで	送迎実施の有無	有り
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康管理と必要な対応を行います。小さなサインから心身の異変に気づけるよう、観察を行います。 ・登降所時の身辺処理(荷物の整理、提出物の管理など)を利用児に合わせ実施し、習慣化出来るように支援しています。 ・1日の流れや、イベントの説明などは視覚支援を用いるなど、利用児の分かりやすい方法で伝え、不安なく過ごすことが出来るよう支援します。 ・生活の中での課題を利用児、ご家族様から伺い、個別支援として取り組みます。 ・自分で適宜水分補給や衣服の調整ができ、タイミングがわかるように見守り、声かけし、自分で意識、行動していけるようにします。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動にて、運動や手先課題など体や指先を使う課題を提供し、身体機能の維持・向上を図ります。 ・プログラムにて、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、様々な体験を提供し支援します。 ・専門機関と連携しながら利用児のプログラムの様子を見てもらい、必要な運動機能が向上出来るプログラムを考え実施し、支援します。継続的に連携を取り、プログラム内容をブラッシュアップしてより、定着出来るように支援します。 ・柔らかい・固い・サラサラ・ドロドロ等の色々な感覚刺激が体験できるプログラムを設定し、創造性を育てていきます。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・応用行動分析を基本に、課題に取り組みます。スモールステップで工夫しながら「できた」「わかった」が積み上げられるようにプログラムを考えます。 ・表現力(自分を知り、伝える力)、社会性(自立して共に生きる力)、基礎知識(生きるために必要な学力)を軸として集団活動の中でアプローチします。 ・中1ギャップ軽減(もうすぐ中学生)のためのクラスを用意し、大きな環境変化の中で、スムーズに新しいステージに移行していけるようにします。 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)のためのクラスを用意し、自分も周りもお互いいい気持ちで過ごせる関わり方を見つけられるようにします。 ・セルフモニタリング・セルフコントロールを目指し、伴走します。小学校高学年から中学生を目途に本人に返していくことを意識して支援します。 ・認知の偏りを把握し、適宜支援を行うことで拘りや忌避感を軽減できるように支援します。 ・プログラムにて、各感覚を刺激し興味の幅を広げることが出来るように支援します。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やし、表現が豊かになるようにします。適切な表現方法を身に着けることで気持ちのコントロールや、よりよい関わりにつながるように支援します。 ・相手との距離感が適切になるよう、実際にどうすればいいか一緒に考え、実践していけるように支援します。 ・自分とは違う考えや価値観を聞いて受け入れたり、アサーティブコミュニケーション(相手の意見も尊重しながら自分の意見や要望を伝える)スキルをつけられるように支援します。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・思いに寄り添った言葉がけに努め、職員と利用者様の良好な関係形成を図ります。 ・職員がモデルケースとなり、他者交流の経験を積むことが出来るように支援します。 ・集団活動を通して、ルールや順番を守ることや、協調した関りを持つように支援します。 ・他者との適正な距離感を把握が出来るように、適宜声掛けを行い、他者との良好な関係形成を支援します。 ・集団活動を通して、他者とのやり取りの場を提供し、職員が間に入り援助、支援します。 ・女子特有の課題を共有し、学び実践につなげ、社会性を養うプログラム(女子プログラム)を設定します。 						
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 ・面談の機会を設けたり、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。 						
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や学校等、ステージの移行期を大切にします。 ・学校や他事業所と情報共有、連携します。移行のための支援会議に参加します。 ・環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。 						

地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、学校、ご利用の他事業所と情報を共有し、連携します。 ・支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 ・生駒市放課後等デイサービス協議会に参加します。 ・生駒市自立支援協議会に参加します。
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。 ・職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)の研修をします。 ・保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。 ・外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と職員の懇談会「LooP」 ・法人のお祭り「インフェス」 ・ABAコンサルティング ・流しそうめん ・ハロウィン ・クリスマス ・イースター ・ナイトプログラム「花火」

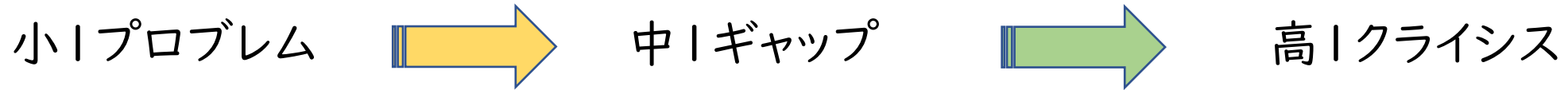
事業所名 ワンステップ(One to One)児童発達支援

支援プログラム

作成日 2024 年 6 月 1 日

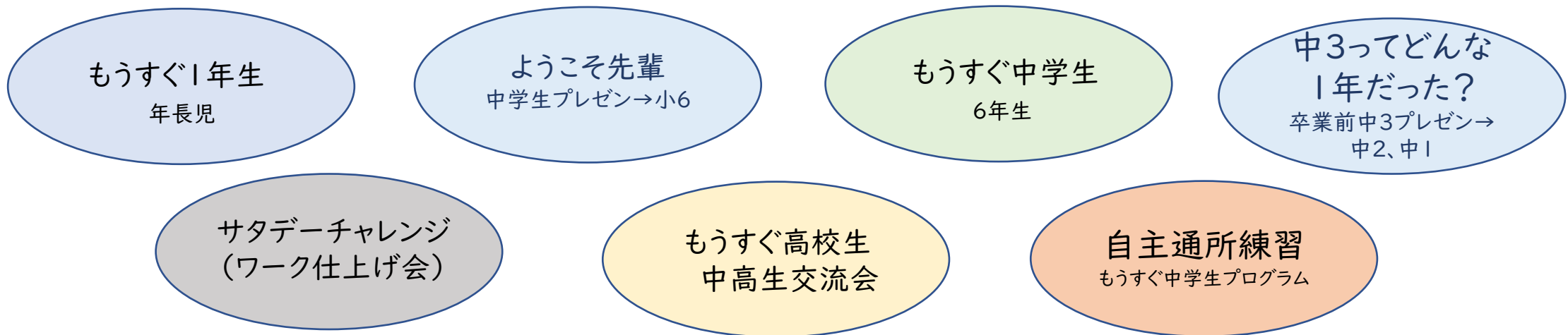
事業所理念	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが 自分らしく 社会や人と共生する力をつける 子どもたちや保護者様の 学びや気づき 安心の場となる 				
支援方針	<p>「困った・・・」に寄り添い、「わかる」を生み出す目的別小集団&個別課題療育 一般常識、手先課題、生活課題、集団での課題について、それぞれの子どもの課題をアセスメントする。 複数の課題を組み合わせてアプローチしていく。</p>				
営業時間(平日)	13 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無 無し
営業時間(休日)	10 時	30 分から	15 時	30 分まで	送迎実施の有無 無し
本人支援	健康・生活	<p>①健康状態の把握 自分の体の状態を感じられているか、把握できているか、聞き取りを行います。</p> <p>②健康状態の維持・改善 食事・運動・睡眠について保護者に聞き取りを行います。改善すべきところがあるか保護者と話し合い、アドバイスします。</p> <p>③水分補給や休息の自己管理 自分で適宜水分補給ができるように、自分の休息休憩のタイミングがわかるように見守り、声かけし、自分で管理していけるようにします。</p> <p>④清潔・身だしなみ 保清を心がけ、身だしなみに気を配れるように声をかけます。</p>			
	運動・感覚	<p>①粗大運動 不登校、または家にこもりがちな利用児には、個別療育に運動(散歩や縄跳び等)を取り入れます。体を動かすことを意識できるようにします。</p> <p>②微細運動 発達段階をアセスメントし、課題を考えます。手先、手指の発達を促し、生活や学習面につなげていきます。</p> <p>③協調運動 意思と実際の動きが連動していない場合には、どこに難しさがあるかアセスメントします。力の強弱、位置の高低等を体を使って学べるように課題を考えます。そうしてボディイメージをつけ、体をうまく動かせるようにしていきます。</p> <p>④感覚過敏・感覚鈍麻 音・匂い・肌触り・光・痛み・味・温度など、過敏であったり鈍麻であったりする感覚に対して、それを軽減する方法や対処を考えます。試していく中で、自分に合った方法や対処を見つれたり、周囲に伝えたりするようアドバイスをします。ストレスを軽減できる方法を見つけたら、それを実践していけるようにします。保護者にも伝えます。また、好きな感覚も見つけ、それをリラックスや集中のために使えるように考えます。</p>			
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 応用行動分析を基本に、個別の課題に取り組みます。スモールステップで工夫しながら「できた」「わかった」が積み上げられるようにプログラムを考えます。 表現力(自分を知り、伝える力)、社会性(自立して共に生きる力)、基礎知識(生きるために必要な力)を軸として個別学習と目的別小集団を組み合わせアプローチします。 小1プロブレム軽減(もうすぐ1ねんせい)のクラスを用意し、大きな環境変化の中で、スムーズに新しいステージに移行していけるようにします。 自分の物と他人の物の区別がつくように、自分の物を管理できるように、それぞれに合った方法を探り、実際に使っていけるように見守ります。 間違えたところを受け入れられるように、間違えたらやり直しができるようにしていきます。 			
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 場面や相手に合わせた挨拶ができるように支援します。 語彙を増やし、表現が豊かになるようにします。日常会話を大事にし、人と話す経験が積めるようにします。 わからないとき、助けてほしいときに伝えられるように練習していきます。 			
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でしようという意識を育てます。 人と社会と共生する力をつけていくために、自己肯定感とレジリエンスを高め、想像力を養っていけるようにします。できているところや利用児本人の強みを言葉にして認め、希望が持てるよう、モチベーションがあがるよう、働きかけます。 家庭、学校以外の安心安全の居場所になれるよう努めます。 保護者以外に定期的に関わる存在として、成長を喜び、細かな変化に気づき、適切に働きかけられるようにします。 			
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 面談の機会を設けたり、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。 就学への移行期に対して、準備できることを伝えたり一緒に準備に取り組んだりして、保護者が入学を楽しみに思えるように支援します。 				
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 年齢、園から小学校への移行期を大切にします。 園、小学校や他事業所と情報共有、連携します。移行のための支援会議に参加します。 環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。 				
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所、園や習い事、ご利用の他事業所、就学先の小学校と情報を共有し、連携します。 支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 生駒市自立支援協議会に参加します。 				
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。 職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)をします。 保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。 外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。 				
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と職員の勉強会・懇談会「LooP」 法人のお祭り「インフェス」 ABAコンサルティング <p>※その他 目的別小集団「もうすぐ1ねんせい」については別紙参照</p>				

新しいステージ移行期の準備、取り組み



大きな環境変化に対して、不安と恐怖と戸惑い、そして挫折を味わう子どもが多い。
障害のある子どもにとっては、もう一つ乗り越えるのにハードルが高いと思われる。

One to Oneの取り組み



手を挙げて発言

保護者懇談会

板書

教科体験

自己紹介

チャイムって？

座り方

係のお仕事

もうすぐいちねんせい プログラム

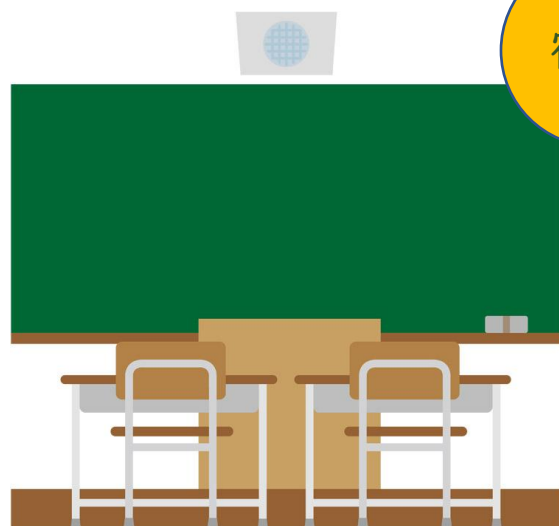
休み時間は何をする？

宿題

音読

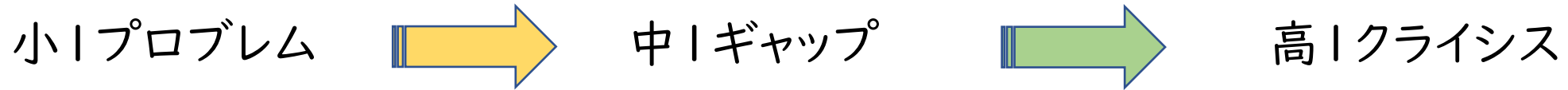
時間割

掃除体験



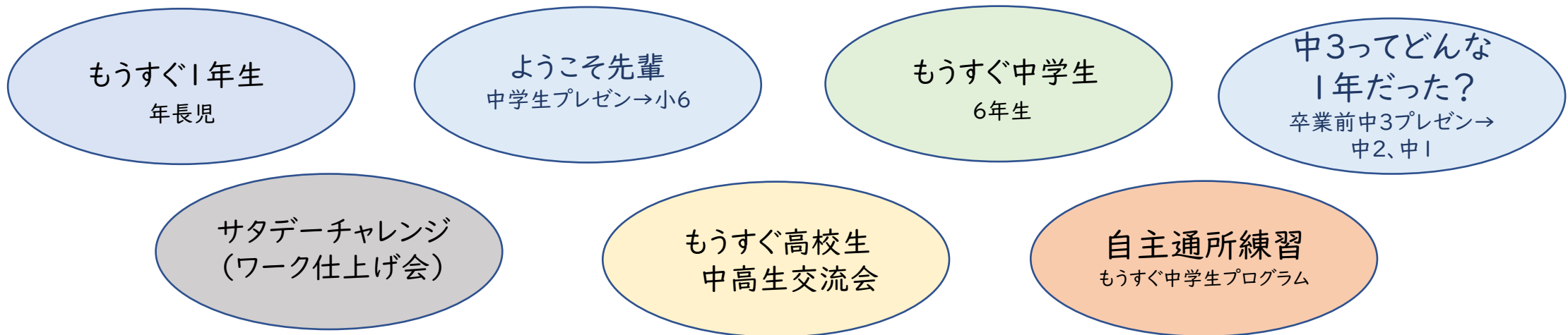
事業所名	ワンステップ(One to One)放課後等デイサービス				作成日	2024年	6月	1日
事業所理念	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自分らしく社会や人と共生する力をつける 子どもたちや保護者様の学びや気づき安心の場となる 							
支援方針	<p>「困った・・・」に寄り添い、「わかる」を生み出す目的別小集団&個別課題療育</p> <p>学校の学習でわかりづらかった単元、一般常識、手先課題、スケジュール管理やお金などの生活課題について、それぞれの子どもたちの課題をアセスメントする。複数の課題を組み合わせるアプローチしていく。子どもたちがセルフモニタリング、セルフコントロールしていくことを目指してサポートする。</p>							
営業時間(平日)	13時	30分	18時	30分	送迎実施の有無	無し		
営業時間(休日)	10時	30分	15時	30分	送迎実施の有無	無し		
本人支援	健康・生活	<p>①健康状態の把握 自分の体の状態を感じられているか、把握できているか、聞き取りを行います。</p> <p>②健康状態の維持・改善 食事・運動・睡眠について振り返り、維持できている理由や改善しなければならない点を意識できるようにします。</p> <p>③水分補給や休息の自己管理 自分で適宜水分補給ができるように、自分の休息休憩のタイミングがわかるように見守り、声かけし、自分で管理していけるようにします。</p> <p>④清潔・身だしなみ 保清を心がけ、身だしなみに気を配れるようになることは、自身の快適性を上げ、周りに対する礼儀にもつながることを伝えていきます。</p>						
	運動・感覚	<p>①粗大運動 不登校、または家にこもりがちな利用児には、個別療育に運動(散歩や縄跳び等)を取り入れます。体を動かすことを意識できるようにします。</p> <p>②微細運動 発達段階をアセスメントし、課題を考えます。手先、手指の発達を促し、生活や学習面につなげていきます。</p> <p>③協調運動 意思と実際の動きが連動していない場合には、どこに難しさがあるかアセスメントします。力の強弱、位置の高低等を体を使って学べるように課題を考えます。そうしてボディイメージをつけ、体をうまく動かせるようにしていきます。</p> <p>④感覚過敏・感覚鈍麻 音・匂い・肌触り・光・痛み・味・温度など、過敏であったり鈍麻であったりする感覚に対して、それを軽減する方法や対処を考えます。試していく中で、自分に合った方法や対処を見つけたり、周囲に伝えたりするようアドバイスをします。ストレスを軽減できる方法を見つけたら、それを実践していけるようにします。また、好きな感覚も見つけ、それをリラックスや集中のために使えるように考えます。</p>						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 応用行動分析を基本に、個別の課題に取り組みます。スモールステップで工夫しながら「できた」「わかった」が積み上げられるようにプログラムを考えます。 表現力(自分を知り、伝える力)、社会性(自立して共に生きる力)、基礎知識(生きるために必要な学力)を軸として個別学習と目的別小集団を組み合わせるアプローチします。 中1ギャップ軽減(もうすぐ中学生)のためのクラスを用意し、大きな環境変化の中で、スムーズに新しいステージに移行していけるようにします。 高1クライシス軽減のために、高校生になってもゆるやかな繋がりをもち、困ったことがあれば相談できる体制を整えます。 自分の物の管理・自分のスケジュール管理ができるように、子どもたちそれぞれに合った方法を探り、実際に使っていけるように見守ります。 自分の強み・弱み、得意・不得意を知っていくためにシートを使ったり、対話したりします。そうして自己理解を深められるようにします。 セルフモニタリング・セルフコントロールを目指し、伴走します。小学校高学年から中学生を別途に利用児本人に戻していくことを意識して支援します。 間違えたところを受け入れられるように、間違えたらやり直しができるようにしていきます。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、学年に応じた言葉遣いができることを目指します。 語彙を増やし、表現が豊かになるようにします。日常会話を大切にし、人と話す経験が積めるようにします。 相手との距離感が適切になるよう、パーソナルスペースの意識をつけるようにします。 自分とは違う考えを聞いて、受け入れたり、アサーティブコミュニケーション(相手の意見も尊重しながら自分の意見や要望を伝える)スキルをつけられるように支援します。 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のことができる」ところから「相手のために」「周りを見て」行動ができるように、視野を広げていけるように、伝えていきます。 人と社会と共生する力をつけていくために、自己肯定感とレジリエンスを高め、想像力を養っていけるようにします。できているところや利用児本人の強みを言葉にして認め、希望が持てるよう、モチベーションがあがるよう、働きかけます。 幼児から高校生までの長期に関わりを持つことができる利点を生かし、カリスマティックアダルトとしての役割を担います。 家庭、学校以外の安心安全の居場所になれるよう努めます。 不登校の利用児が不安を取り除き、相談しやすい関係を作るようにします。先の見通しを持つことができるように進学先や職業について一緒に調べたり、話をしたりしながらイメージをもてるようにしていきます。 						
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の思いや要望、悩みを伺い、相談に乗り、寄り添います。 面談の機会を設けたり、勉強会や集いの場「LooP」を提供、開催します。 反抗期・思春期の利用児と保護者との間に感情的な対立があるときは、第三者の役割として間に入り中立的な立場でサポートします。 							
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や学校等、ステージの移行期を大切にします。 学校や他事業所と情報共有、連携します。移行のための支援会議に参加します。 環境が変わっても、利用児が安心して過ごせるようにします。 							
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所、学校や習い事、ご利用の他事業所と情報を共有し、連携します。 支援会議で支援側の関係機関それぞれの役割分担を確認して支援します。 生駒市放課後等デイサービス協議会に参加します。 生駒市自立支援協議会に参加します。 							
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 新入職員研修(マナー・安全運転・福祉の仕組みと資源)をします。 職員研修(虐待防止・身体拘束防止・感染症予防・地震災害対策・てんかん・アレルギー勉強会・個人情報保護・応用行動分析)をします。 保護者と職員のための合同勉強会、懇談会「LooP」を開催し、子どものリスク要因・保護要因を知り、時代や状況に合わせた支援を考えます。保護者の思いやニーズに触れる機会を大切にします。 外部研修に積極的に参加し、療育方法を常にアップデートできるようにします。 							
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と職員の勉強会・懇談会「LooP」 法人のお祭り「インフェス」 ABAコンサルティング 流しそうめん <p>※その他 目的別小集団「もうすぐ中学生」「社会生活科クラス」については別紙参照</p>							

新しいステージ移行期の準備、取り組み



大きな環境変化に対して、不安と恐怖と戸惑い、そして挫折を味わう子どもが多い。
障害のある子どもにとっては、もう一つ乗り越えるのにハードルが高いと思われる。

One to Oneの取り組み



自己紹介

電話のかけ方

公共交通機関の
使い方

ようこそ
先輩

防災
プログラム

SNS
について

中1ギャップ
について

文房具の使い方

表現力

ブレイン
ストーミング

もうすぐ中学生 プログラム

Zoomで
つながろう

数学

英語

テスト体験

レクリエーション

制服の着方練習

ラジオ体操 第2

プレゼンテーション

【社会生活クラス】

対象：地域の中学校に通う児童 ※支援級に所属している。

★表現力（自分を知り、伝える力）

- ・自分の意見を持ち、伝える。
- ・人の話を聞く。対話。考える。

★社会性（自立して共に生きる力）

- ・電車に乗る・電話をかける・マナー・手紙が書ける(自分の住所、手紙の書き方)
- ・地図・買い物・料理・スケジュール

★基礎知識(生きるために必要な学力・知識を学ぶ)

- ・ことわざ・計算、漢字・ローマ字・時計・季節の事柄・標識・単位

